

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

(1) 新設組織の概要	2
①新設組織の概要	2
②新設組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的動向等	3
①新設組織で養成する人材の 全国的・地域的・社会的動向の分析	3
②中長期的な18歳人口等入学対象 人口の全国的、地域的動向の分析	3
③新設組織の主な学生募集地域	4
④既設組織の定員充足の状況	4
(3) 学生確保の見通し等	5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	5
②競合校の状況分析	5
③先行事例分析	5
④学生確保に関するアンケート調査	6
⑤人材需要に関するアンケート調査等	6
(4) 新設組織の定員設定の理由	7

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 新設組織の概要

#### ①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設する湊川短期大学 人間健康教育学科は、令和9年4月開設を目指して、同時に、同一設置者内の人間生活学科人間健康専攻を廃止（定員移行）し、既存の教育資源を再編して「人の心と体の健康を支える教育」を実践できる専門的人材の養成を図る。

新設学科	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
人間健康教育学科	40	—	80	兵庫県三田市四ツ辻 1430

#### ②新設組織の特色

##### ○養成する人材像と学位の分野

人権尊重を基盤として、「人の心と体の健康を支える教育」を実践できる専門性を体系的に学び、地域住民の健康管理に寄与できる実践的人材を養成する。学位の分野は教育学・保育学関係であり、養護教育・学校保健・食育・心理・医療事務等を横断するカリキュラムにより、地域・学校・家庭の現場で必要とされる健康教育の知識・技能・態度を統合する。

##### ○教育課程の骨格と学修歷程

2年制・入学定員40人（収容80人）の枠組みで、教育課程を教養教育→専門教育→学外実習の段階的編成をとる。初年次で教養基盤（茶道、キャリア教育、ゼミによる個別指導）を整え、2年次にかけて養護教育・学校保健・食育・心理・医療領域を中心に専門的学修と実習（教育実習・看護臨床見学実習）を往還させる設計とする。

##### ○関連既設組織との関係

人間健康教育学科は、人間生活学科人間健康専攻（平成13年4月開設）が長い年月をかけて蓄積してきた養護・食育・心理・医療事務等の教育資源を再編・高度化したものであり、同専攻の募集停止及び廃止（定員移行）を伴う組織改編に位置づけられる。改編後は、教員養成の明確化／資格取得支援／実践重視／地域貢献を短期大学全体の特色として一層明確化する。

## (2) 人材需要の社会的動向等

### ①新設組織で養成する人材の全国的・地域的・社会的動向の分析

人間健康教育学科が養成する、教育の視点から心身の健康を支える人材（養護・学校保健、健康教育、食育、心理支援、医療事務の基礎を横断的に学ぶ教育課程）は、学校・地域・医療の三位一体の連携を背景に、全国的にも地域的にも持続的な需要が見込まれる。学位分野は教育学・保育学関係であり、学校保健体制の強化、健康教育・食育の推進、学齢期のメンタルヘルス支援、医療・福祉との連携が政策・現場双方で課題化している点と整合する。

本学が立地する兵庫県三田市では、「誰もがこころもからだも健やかに暮らせるまちさんだ」を実現目標として、健康づくりを推進するため「第3次健康さんだ21計画」を令和6年度に策定し、健康意識の向上・健康寿命の延伸を目指している。その中でも市民の健康を支え守るための社会環境の整備を掲げて、ライフコースを踏まえた健康増進政策を計画しており、その政策を支える人材は人間健康教育学科の養成する人材像と一致している。

【出典】三田市 第3次健康さんだ21計画

[https://www.city.sanda.lg.jp/shisei\\_joho/seisaku\\_keikaku/kenko/26884.html](https://www.city.sanda.lg.jp/shisei_joho/seisaku_keikaku/kenko/26884.html)

#### ○学校保健・養護領域

児童生徒の健康課題の多様化（慢性疾患・アレルギー・メンタルヘルスなど）と救急対応・健康相談・保健教育の高度化により、学校現場での実践的人材の必要性は引き続き高い。学校と地域医療の連携を理解し実務に落とし込める人材は全国的に不足気味であり、特に地方圏では人材の確保が重要課題となる。

#### ○地域の健康教育・食育

自治体の健康増進・食育施策や学校給食・地域イベント等における生活習慣病予防・栄養教育の担い手は、学校保健と地域保健の橋渡しができる人材の育成によって底上げが期待される。

#### ○心理支援・医療事務の基礎

学校・地域での発達・臨床心理的支援と、医療機関等における事務・情報連携の実務を理解することは、医療DXの進展や多職種連携の拡大に伴い、就業領域の選択幅と就職安定性の確保に資する。

### ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的・地域的動向の分析

文部科学省「関係データ集（令和6年7月19日版）」によれば、我が国の18歳人口は2005年の約137万人から2023年には約110万人まで減少しており、2035年には約96万人と初めて100万人を下回る見通しが示されている。さらに、2040年には約82万人まで減少する推計も示され、長期的には若年人口の縮減が継続する。

【資料1】18歳人口（男女別）の将来推計

リクルート進学総研（学校基本調査に基づく推計）によると、近畿圏の18歳人口は2024年175,609人から2036年153,019人へ約12.9%減少する見通しである。とりわけ奈良県（▲19.4%）の減少幅が大きく、大阪府は8,082人の最大減少数を示す。また、兵庫県は47,278人（2024）→41,853人（2036）で約11.5%の減少と予測されている。短中期である2027年度以降から5年程度は、兵庫県で48,430人（2027）→46,662人（2031）においては小幅な減少にとどまっていることから、入学定員40名（収容80）は、主たる募集圏（阪神間・北摂・兵庫北部・京都北部）での進学率の上昇と地元残留志向により、適正かつ実現可能性の高い定員規模と評価できる。

【資料2】都道府県別18歳人口・進学率・地元残留率の動向

③新設組織の主な学生募集地域

湊川短期大学は兵庫県の南東部に位置する三田市にあり、大阪市内・神戸市内を含む阪神間と兵庫県北部の丹波・但馬地域、北京都地域にアクセス可能な立地にある。兵庫県三田市はニュータウンと工業団地（北摂三田テクノパーク）を擁する人口・産業複合地域として発展しており、学校・医療・福祉資源の集積と、近隣都市部との通学・通勤圏が形成されている。

更に、本学敷地内に設けられた学生寮が3棟（定員74女子のみ）あり、通学2時間以上圏内（主に他府県在住者 表1）の学生に寮費を無料にする取り組みを行うことで、近畿圏にとどまらない広域からの需要に応えることが可能となっていることから、学校保健・地域健康づくり・食育・福祉連携の分野において広域的な人材需要の受け皿となり得る。

表1：人間生活学科人間健康専攻 出身高校の所在地県別入学数

出身高校の所在地県別入学者数	性別	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	
	男																	
	女							1										
		石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	
	男										1		1					
	女							1	1		6	3	17	1	1		1	
		岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計	
	男																	2
	女	1		3	1	1							1		1			40

【出展】令和7年度 学校基本調査

④既設組織の定員充足の状況

湊川短期大学では2学科を設置しており、その2学科の直近5年間の入学定員充足状況を別紙に示す。【別紙2の2-1】 【別紙2の2-2】

人間生活学科人間健康専攻において、直近年次の入学定員充足率は概ね安定的に推移しており、80%未満となる年次は確認されない。同専攻で培われた教育資源（養護・食育・心理・医療事務）は、新設の人間健康教育学科へ再編・継承される。

#### 【別紙2の2-1】人間生活学科人間健康専攻

幼児教育保育学科では、入学定員を100人としていたが、令和4年度以降の入学者数を減らし入学定員の0.53倍にまで割り込んだため、令和6年度に入学定員を60人に変更し、現在は0.88倍で推移している。今後さらに中高生の教育及び保育分野離れの傾向がさらに強まると予想することから、入学定員を60人（収容定員120人）から、令和8年度中に入学定員を減らして50人（収容定員100人）に変更する計画としている。

#### 【別紙2の2-2】幼児教育保育学科

### (3) 学生確保の見通し等

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学は兵庫県三田市に立地し、市内を南北にJR宝塚線（福知山線）が通る土地のため、阪神間・北摂・兵庫南部・京都南部まで概ね60～90分圏の通学圏を有する。既設の人間生活学科人間健康専攻（既設・定員移行）と幼児教育保育学科で形成してきた周辺高等学校からの安定的な入学経路と、OC（オープンキャンパス）等の募集導線を有し、再編後の新設学科へ移行可能な基盤を保持している。

更に、本学ウェブサイト内にある資料請求を通じた大学案内を送付や、広告業者の主催する進学説明会に積極的に参加することで高等学校生との接触数を増やし、DM発送のためのハウスリストの充実を図っている。高等学校訪問は年間を通じて行っており、三田松聖高等学校（同一法人）や三田市内の高等学校だけに限らない直近5年間の入学者数から多くの入学実績を有している高等学校を重点的に訪問して、高等学校教員の理解を得るためのPR活動を行っている。【別紙3】

#### ②競合校の状況分析

兵庫県内には養護教諭を養成する短期大学は本学以外存在せず、四年制大学においてはいくつかの養護教諭を取得できる学部があるが、養護教諭養成を主とした学部学科はない。

近畿圏には養護教諭を養成する短期大学が数校存在するが、兵庫県三田市からは遠距離となっており、学生募集地域は重ならないことから競合校を選定できない。

#### ③先行事例分析

前述のとおり、近隣には比較対象となる学部学科がないため、比較可能な先行事例は該当しない。

#### ④学生確保に関するアンケート調査

令和7年度に行った湊川短期大学オープンキャンパスの来場者数と、来場者を実施しているアンケートの結果を表2に示す。

表2：人間生活学科人間健康専攻オープンキャンパス参加者のアンケート結果

参加者数	内本学希望者	受験者数	入学者数
95人	57人	42人	42人

表3：人間生活学科人間健康専攻の定員充足状況

人間生活学科 人間健康専攻	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
定員数	50	40	40	40	40
入学者数	42	41	43	37	42
定員充足数	84%	103%	108%	93%	105%

アンケート調査結果と5年間の入学定員充足率（表3）から、人間生活学科人間健康専攻の募集状況は安定しており、この教育資源を再編し継承する新設学科でも比較的安定した入学定員を確保可能と考える。

#### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

人間健康教育学科における人材需要は、その基となる既設人間生活学科人間健康専攻の就職状況から判断できる。

既設学科での就職状況は、養護教諭24%、医療事務37%、その他（施設・一般企業）18%、一般企業16%となっており、大学学部への編入学による進学は5%で推移しており、安定的な就職状況となっている。養護教諭は兵庫県下の幼・小・中・高を中心に、近隣である京都府下及び他府県と幅広く分布している。その他については、児童福祉施設を中心に一般企業も含まれる。

#### 【資料3】湊川短期大学 卒業生進路状況

このように、人間生活学科人間健康専攻の養成する人材は、養護教諭に限らず幅広い分野・業種で活躍しており、様々な教育機関や福祉施設、企業体からの需要が見込まれ

る。これは本学科が養成する「地域の健康・食育・心理・医療事務分野で即戦力として活躍できる人材」が地域社会に受け入れられており、地域からの継続的な需要があることを示している。この既設の教育資源を発展的に再編した人間健康教育学科も、同様の需要を見込み、地域の人材需要に継続的に応える体制を強化する必要がある。

#### (4) 新設組織の定員設定の理由

全国の18歳人口は長期減少（2005年約137万人→2035年約96万人→2040年約74万人）となっていますが、近畿圏の18歳人口は2025～26年に一時安定→2027年以降再減少すると予測されている。その中、兵庫県は2024年47,278→2036年41,853（▲約11～12%）の減少となっているが、開設年度直後の急減リスクは限定的と考えられる。

本学の主な学生募集地域である兵庫県（52.6%）京都府（16.8%）大阪府（7.4%）

【別紙1】で約8割弱を安定的に確保しており、さらに学生寮を無料する政策を用いて、兵庫県外であっても積極的に募集活動を行っていることから、新設学科においても入学定員40人は充足可能と考える。

これらの状況から、既設人間生活学科人間健康専攻で充足率を保っている実績値でもある入学定員40人を継続することが、18歳人口の減少期にあっても妥当な定員水準だと考える。